

事務事業名	全国都市監査委員会参画事業				担当	総務部 監査・選管	
政策名	H	施策体系外			電話番号	0285-83-8190(内線3201)	
施策名	01	施策体系外の事業			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和29年度~)	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	6監査委員費	6監査委員費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)		
事業概要	全国都市監査委員会は、全国都市監査委員会相互の連携を密にし、監査委員制度の円滑なる運営と健全なる発展を図ることを目的にこの事業を進めている。実施する事業は次のとおり 1.都市監査委員相互の意思の疎通及び連絡 2.監査委員制度に関し、関係官庁等への陳情、請願 3.監査に関する研修会、講演会の開催 4.監査に関する調査研究資料等の発表交換会員数781都市24団体(組合・水道企業団)H23負担金26000円						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 23年度実績 定期総会、事務研修会を各1回開催、各県持ち回りで実施している。 24年度計画 23年度と同じ	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
	名称						
	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
	ア	定期総会	1	1	1	1	1
	イ	事務研修会	1	1	1	1	1
ウ							
エ							
オ							
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 全国で組織する監査委員、事務局職員	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
	名称						
	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
	ア	全国都市監査委員数	1912	1860	1860	1878	
	イ	事務局職員数	3473	3430	3430	3427	
ウ							
エ							
オ							
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 監査委員相互の連絡及び監査委員制度の円滑な運営と情報の交換	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移						
	名称						
	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
	ア	監査委員制度の円滑な運営	100	100	100	100	
	イ	補助職員の監査技能が向上した割合	100	100	100	100	
ウ							
エ							
オ							
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 監査事務の円滑な運営と効率的な監査の実施	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移						
	名称						
	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
	ア	財政の健全度に結びついている割合	100	100	100	100	
	イ						
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	120	28	302	107	160	
	事業費計(A)	千円	120	28	302	107	160	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	16	4	16	16	16
		人件費計(B)	千円	67	16	68	68	68
トータルコスト(A)+(B)		千円	187	44	370	175	228	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	監査機能の充実を図るため全国都市監査委員会が設置され真岡市として参画した。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	従来の監査は主に誤謬・不正の発見・防止に主眼が置かれていたが、現在は効率化、コスト意識に変わってきている。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 事務研修会等に参加することにより、充実した監査ができる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 他市の状況の把握、情報交換を行うことにより、より充実した監査が実施できる。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 監査委員相互の連絡及び情報の交換により、監査委員制度の円滑な運営が図れる。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 参画することにより、監査事務の円滑な運営と効率的な監査を実施しているため、成果向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 監査機能の低下につながる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 他に類似事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 年会費及び出席負担金の支出のみで、最小の経費であり、削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 人件費は研修会への出席費用であり、削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。規約に基づくものである。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							